

# 世界遺産

をゆく

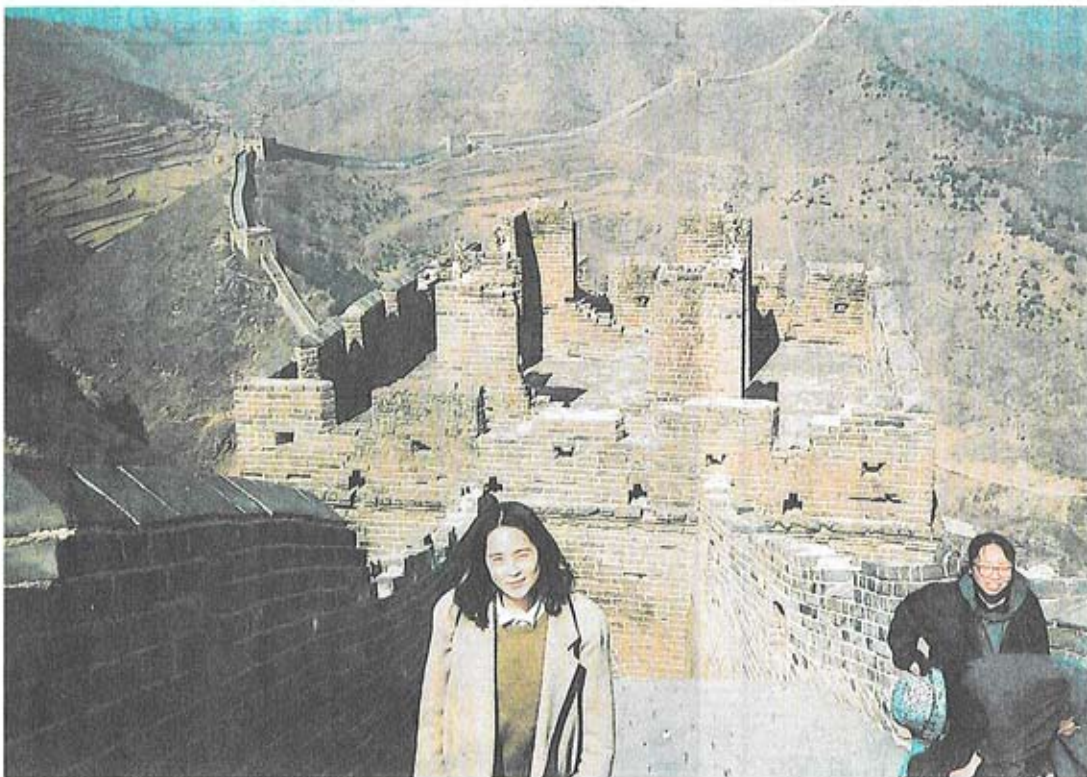
5

日本でも有名な中国の万里の長城は、春秋時代に、紀元前七世紀前後に建設が始まった城壁です。秦の始皇帝の時代に、北方の遊牧民族の侵入を防ぐための防壁とされまし

た。東は河北省の山海関から西は甘肅(かんしゅく)省の嘉峪関(かよくかん)まで全長約二千七百

kmの遊牧民族の侵入を防ぐための防壁とされまし

見ることのできる唯一の地球の建築物であるとも



司馬台長城(中央は筆者)

中国文明を象徴する文化遺産として、一九八七年に世界遺産登録されました。現在観光客に公開されているのはこの長城の一部分です。観光地として人気があるのは北京市郊外にある八達嶺(はつたつれい)や慕田峪(ぼんでんよく)ですが、そのほかにも金山嶺、司馬台などがあります。

八達嶺長城は最初に観光地化されたところです。一九九四年に筆者が初めて訪れた長城もこの場所でした。平たんな道路のようなものを想像していたのに、山の中につくられたそれは起伏のある道で、中国人が万里の長城を「走(ツオウ)歩(パ)ー」とは言わず「爬(パ)ー」と言っている

## ロマン感じる 歴史の道

意味が初めてわかりました。筆者が二度目に訪れた長城は司馬台です。八達嶺は観光には便利ですが、いかにも観光地といった趣があります。これに対して司馬台長城は観光客もそれほど多くはなく、城壁や道も修理をせず本来のままの状態を保っているため、歴史好きの筆者としては、司馬台のほうが印象に残りました。

司馬台は各地の長城の中では一番険しい場所だそうです。筆者も訪れましたが、行程の目的地である見張り台はかなり高いところであり、高所恐怖症で最後まで登ることができませんでした。しかし、周りの荒涼とした景色を眺めながら山の中の道をたどっていくだけで、古代の兵士たちの気持ちのしほれ、しほし歴史のロマンにひたることができました。

中国には「不到長城非好漢(長城に到らずば立派な男子にあらず)」という言葉があります。男性だけでなく、もちろん女性もぜひ一度、この悠久の歴史の道を歩いてみてはいかがでしょうか。

(田中智子・神戸夙川学院大学講師)

(次回は来年1月21日掲載予定)